

滋賀の文化財講座 打出のコツチ

会場 コラボしが21（大津市打出浜2-1）3階 中会議室1
 毎回午後1時30分より（受付開始午後1時15分から）
 募集人数 各回40名（原則事前予約 ただし当日参加も可）
 受講料 無料（別途テキスト代が必要な講座もあります。）

第1回

竹生島宝蔵寺文書 —歴史と保存修理—

太田浩司氏（長浜城歴史博物館）
 池田和彦氏（株式会社坂田墨珠堂）

5/20（木）

第2回

湖の国の名宝、遠の朝廷へ —九州国立博物館展示の舞台裏—

井上ひろ美（県立琵琶湖文化館）

6/17（木）

第3回

近江の仏画

—九州国立博物館出品作を中心に—

上野良信（県立琵琶湖文化館）

7/22（木）

第4回

近江の梵鐘 —その文化史—

古川史隆（県教委文化財保護課）

8/19（木）

第5回

近代和風建築の魅力 —蘆花浅水荘を中心に—

菅原和之（県教委文化財保護課）

9/16（木）

主催 県教育委員会事務局
 県立琵琶湖文化館
 後援 滋賀県文化財保護連盟
 びわこビクターズビューロー
 協賛 琵琶湖文化館友の会

第6回

聖衆来迎寺の 新出資料

井上 優（県教委文化財保護課）

10/21（木）

第7回

近江の神社建築と その景観

水谷 勝（県教委文化財保護課）

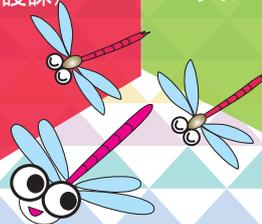
11/18（木）

第8回

民俗文化財の魅力 （仮題）

矢田 直樹（県教委文化財保護課）

12/16（木）



参加のご予約
 お問い合わせは

滋賀県立琵琶湖文化館

〒520-0806 大津市打出浜地先
 TEL 077 (522) 8179 FAX 077 (522) 9634
 メールアドレス biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp
 ホームページ http://www2.ocn.ne.jp/~biwa-bun/



第1回 5月20日(木)

竹生島宝蔵寺文書 –歴史と保存修理–

太田浩司氏 (長浜城歴史博物館)
池田和彦氏 (株式会社坂田墨珠堂)

琵琶湖に浮かぶ神秘的な竹生島は、弁財天と観音菩薩の霊場として古くから信仰されてきました。宝蔵寺には竹生島の歴史を物語る古文書が多く伝えられ、とくに鎌倉から桃山時代までに作成された中世文書376点は、近江を代表する史料群として県指定有形文化財になっています。

ただし、長年の伝来過程でほとんどの古文書に虫害や破損があったため、平成13年度から21年度までの9年度にわたって保存修理事業を進めました。

講座では、古文書の寄託先である長浜城歴史博物館の学芸担当者が史料の内容から見える歴史像について、施工者である坂田墨珠堂の修理技術者が保存修理の実際について説明し、古文書を守る仕事の意義について紹介します。

第2回 6月17日(木)

湖の国の名宝、遠の朝廷へ
—九州国立博物館展示の舞台裏—

井上ひろ美 (県立琵琶湖文化館)

6月11日(土)から9月5日(日)までの会期で九州国立博物館を会場に開催される「湖の国の名宝展」は、琵琶湖文化館の開館50年と九州国立博物館開館50周年を記念しています。九州国立博物館は福岡県太宰府市に所在しており、約1年半に及ぶ準備期間は遠く離れた両館が手をたずさえながら取り組んできました。

この講座では、「湖の国の名宝展」の開催準備を題材に博物館における展覧会事業の企画から開催までの実際について紹介するとともに、開催の舞台裏についてもお話しします。また、開催中の「湖の国の名宝展」の展覧会会場の様子などについても紹介します。

第3回 7月22日(木)

近江の仏画
—九州国立博物館出品作を中心に—

上野良信 (県立琵琶湖文化館)

仏教の発展に伴って、仏像とともに、多くの仏画が制作され、信仰の対象として、人々の様々な願い、祈りといったものを一身に受けてきました。仏画には、各時代の全知識、最新技術によって描かれるという側面があります。そこに芸術性、美術性が生まれ、信仰の対象としての神秘性と相まって、薫り高い美術作品となり、人々を魅了しつづけるのです。

琵琶湖文化館には、県内各地から寄託絵画が500点以上あり、その半分ほどが仏画です。その中には国宝1件、重文20件が含まれています。こうした仏画の名品を中心に、近江の仏画の魅力を紹介いたします。

第4回 8月19日(木)

近江の梵鐘 –その文化史–

古川史隆 (県教委文化財保護課)

滋賀県教育委員会では、平成21年度から国庫補助を受けて「滋賀県所在梵音具資料調査」を始めました。調査対象としている梵音具(ぼんのんぐ)の中でも、最も代表的なものが梵鐘(ぼんしょう)です。鐘楼につるされた梵鐘は、儀式的合図として打ち鳴らされる以外に、時を知らせるなど村落共同体のためにも用いられたため、今なお地域社会で親しまれています。

近江には奈良時代の梵鐘をはじめ、数多くの著名な鐘がありますが、始まったばかりの「滋賀県所在梵音具資料調査」では、これまであまり知られていなかった注目すべき梵鐘をいくつか見出すことができました。講座ではそれらの紹介をあわせて、近江の梵鐘文化史を素描します。

第5回 9月16日(木)

近代和風建築の魅力
—蘆花浅水荘を中心に—

菅原和之 (県教委文化財保護課)

わが国には、千年以上にわたって連続と培われてきた木造建築の伝統技法があります。明治維新以降、西洋諸国の建築文化が導入され、新しい技術・意匠による西洋建築が急速に広まりますが、実はそうした時代においても、伝統技法による木造建築は廃れることなく、盛んに建てられました。それどころか、伝統技法は明治時代以降さらに進歩を遂げ、大正から昭和初期に最高点を迎えます。意匠においても、江戸時代までの伝統を基礎としながら、新しい時代に応じた、和風でありながらも江戸時代以前とは異なった感覚を持つ建築が建てられます。こうした明治時代以降の新しい伝統建築を近代和風建築と呼びます。滋賀県にも数多くの優れた近代和風建築が建てられました。本県の代表的な近代和風建築である重要文化財蘆花浅水荘(大津市)を中心に、住宅・旅館・公共建築など近代和風建築の奥深い魅力を紹介いたします。

第6回 10月21日(木)

聖衆来迎寺の新出資料

井上 優 (県教委文化財保護課)

今年1月の新聞報道で、大津市の聖衆来迎寺から優雅な「蕎麦器(そばき)」が発見されたと報じられました。それは幕末期に制作された漆器で、紀州徳川家出身の芳寿院懿姫(ほうじゅいん よしひめ 1767~1843)の形見として同寺に寄進されたものであったのです。

懿姫遺愛の「蕎麦器」は百人一首の歌ガルタ、和綴じ本、寒山拾得図小襖などの精巧なミニチュアとしての形状をもつ珍しい逸品。それがなぜ、天台宗の聖衆来迎寺にもたらされたのでしょうか。講座では名刹の知られざる歴史の一面を、「蕎麦器」など新出資料から明らかにします。

第7回 11月18日(木)

近江の神社建築とその景観

水谷 勝 (県教委文化財保護課)

近江は神社建築の宝庫と呼ばれます。とくに鎌倉・室町時代の建築が多いことで全国的に知られています。惣村(そうそん)と呼ばれる自治性の強い中世村落の中で、人びとの精神的紐帯の中心に神社がありました。その伝統は近世以後もひきつがれ、今なお村落の中心に神社の杜(もり)と社殿や鳥居などの建築が存在します。多くの滋賀県民が親しみつづける神社建築、および神社景観を具体的に紹介し、文化財としての保存と活用の取組みについて考えていきます。

第8回 12月16日(木)

民俗文化財の魅力(仮題)

矢田 直樹 (県教委文化財保護課)

滋賀県には祭礼行事や生活文化など、豊かな民俗文化財が存在します。その魅力について、今年度新たに着任した担当者が、新鮮な切り口で紹介いたします。

